

## 【平成25年度 北海道旭川東高等学校 第3回学校評議員会の報告】

期 日：平成26年3月27日（水） 18：30～20：00

会 場：北海道旭川東高等学校 校長室及び定時給食室

出席者：学校評議員2名、校長、教頭、事務長 5名



### 〈校長からの挨拶〉

- 今年度最大の出来事である周年事業が多くの皆様のご支援で無事終了したこと
  - 過日、全日制1・2年生で球技大会を実施したこと
  - 学年末の終業式を終えたこと
- について報告。

その後、学校経営上の課題について意見交換が行われた。

### 〈本校の現状と学校経営上の課題について〉

●全日制の進路状況については、今年度の傾向として本州勢の道内への進出が目立った。また本校においては、北海道大学への進学者も多いが、「将来自分のやりたいこと」で進学校を決める者も増えており、進学先は多岐に富んだ。

●全日制の課題としては授業時数の確保である。7時間授業の日も設定しているが、伝統的に行ってきた行事等も多く、今後はそのバランスも検討していく必要がある。

●定時制の課題は学校の魅力作りである。少子化による入学者の減少もあり、教育内容の見直しや特色ある学校づくりを一層推進していく必要がある。

### 〈教育活動全般に関する意見交換〉

◆自分にあった学校選びは大切である。学校名ではなく、例えば「この先生がいるからこの学校に行ってみよう」というように、早い時期から自分に何が向いているのかを見極め選択すべきである。

◆高校の選択についても同様のことが言えるかもしれない。教育活動はホームページ等でも閲覧できるが、それを多くの人に見てもらおう手立てが必要である。中学生に東高の良さを伝え偏った見方がされないよう中学校へのPRを積極的に推進していくべきである。中学生がそれをよく理解した上で東校に進学すれば、もっと充実した高校生活を送れると思う。

◆子どもたちの躓きは些細なことが原因になっていることがある。中学校で経験したことのない壁に高校ではじめてぶつくと、親の期待が大きいほど子ども自身がその

結果に責任を感じてしまう。点数のみで評価するのではなく、子ども自身が考える将来について保護者が真剣に耳を傾けることが大切だと思う。

◆最も大切にすべきは「自分がどういう高校生活を過ごしたいか」ということである。

◆過日、全日制陸上部の1年生がインターハイで好成績を収め、管内表彰を受けた。他の生徒もこれに刺激を受け、様々なジャンルで全国を目指して欲しい。



◆学習だけでなくスポーツを通じて学ぶことも多い。オリンピック選手や将来そうした分野で優れた指導者を輩出していくためにも、国や自治体が適切な支援をしていくことも必要と考える。

◆近年、職員の心身両面の健康にも留意している。産業医に加わっていただき毎月衛生委員会を開催し職場環境の改善に努めている。今年からはじめて教職員対象に、校内でインフルエンザの予防接種を行った。

◆授業時数の確保については、現在最優先課題として考えている。本校は文武両道をモットにしており、学校行事や部活動の時間を大きく削減することは難しい。長期休業期間や週休日も考慮しながら有効策を検討していきたい。



◆子どもたちが視野を拡げ、様々な側面から生きる力を身につけるためには、卒業生に若い世代を育てる手伝いをしてもらうことも考えてはどうか。また、退職した教職員に力を貸してもらうという方法などもあると思うが、今後は是非検討して欲しい。

今年度も終了しますが、学校評議員の皆様には、課題解決のための貴重なご意見やヒントを数多く聞かせていただきました。来年度の学校運営に是非反映していきたいと思っております。一年間本当に有り難うございました。